

秋冬にんじん産地の新たな担い手の育成

～新規部会員のための視察研修会の開催～

1 活動のねらい

JA千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会（57戸）及び土気地区出荷組合連合会人参部会（16戸）では約50haで秋冬にんじんが栽培されています。高齢化による部会員の減少等により作付面積の減少が見込まれる一方で、新規参入や親元就農により、新たに秋冬にんじん栽培に取り組む部会員もおります。

そこで、新たな部会員の経営安定を図るため、栽培管理技術の向上と経営改善の手法を学ぶことを目的に、他産地の視察研修会を開催しました。

2 課題の背景

人参部会では、平成29年以降に新規参入や親元就農により10名の部会加入があり、今年度は4名が加入するなど、50歳以下の若手農業者の加入が進んでいます。しかし、新規部会員は栽培の経験が浅いため、秋冬にんじんの栽培技術の向上が求められています。また、新規参入者は地域の仲間とのつながりが薄いことも課題であるため、昨年度に引き続き今年度も新規部会員と若手農業者を対象にした研修会を開催しました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 研修会内容の検討

新規部会員を個別巡回し、現在の営農上の問題を聞き取り、JA千葉みらい、千葉市農政センターと研修内容について検討しました。聞き取りの結果、新規部会員は作付面積の拡大志向があるものの、栽培管理技術や作業の効率化において課題があることがわかりました。

そこで、秋冬にんじんの産地である八街市において、大規模に栽培している農業者から栽培管理技術と経営改善の手法について、また、労働力の負担軽減のための手段の一つとして、八街市にあるJA千葉みらいの共同選果場を視察することとしました。

(2) 視察研修会の開催

開催時期は秋冬にんじんの繁忙期ではありましたが、研修対象の18名のうち9名が参加しました。1事例目は共同選果場のJA千葉みらいグリーンやちまたを視察し、集荷から出荷までの流れ、使用している機械、作業員による選果の工程などについて職員から説明を受けました。参加者からは、選果方法や個別の出荷量の記録方法についてや、他地区から出荷する場合の体制などについて積極的に質問があり、将来の出荷を想定した情報

収集ができました。



写真1 共同選果場の視察



写真2 優良農家のほ場の視察

2事例目は露地野菜の栽培面積 6.5ha、うち 3ha で秋冬にんじんを栽培している若手農業者のほ場及び作業場を視察しました。参加者からは、栽培管理技術に関することや 1 日の作業スケジュール、労働時間や労働力、役割分担などについて、活発に視察先の若手農業者と意見交換がされ、経営改善への意欲が向上しました。

視察後に参加者からは、「百聞は一見にしかずで、大変勉強になった。大規模経営農家の技術を学んだので、自分の今後の経営に役立てたい」「面積拡大に向け、経営について具体的に考える時期がきていると思った」「自分はまだ栽培面積が小さいので、視野が広がった」といった感想を聞くことができました。今回の視察を通し、参加者は将来の規模拡大に向けてのイメージができたようです。

4 今後の課題

千葉市の秋冬にんじん産地としての作付面積を維持するには、新規部会員の栽培管理技術の向上と、継続的に相談できる先輩農業者や仲間とのつながりをつくることが重要です。

今後も関係機関と課題を共有し、連携して個別指導と並行して研修会等を開催し、経営を安定させるための支援を続けます。

5 担当者 千葉・習志野グループ ◎間宮ちさこ、木村明花音

6 協力機関

千葉市農政センター、JA千葉みらい